

なほニュースダイジェスト

こちらでも配信中→ Facebook



LINE



2/9

市制100周年まで いよいよ100日！

5月20日の市制100周年記念日の100日前記念セレモニーを本庁舎で行いました。沖縄工業高校の生徒が制作した残歴版が点灯すると、会場から拍手が沸き上がりました。さらに、首里郵便局の高安勝雄局長より「市民のみなさんにご覧頂き100年の歴史の重みを感じて頂けたらと思います」と、50年前に市制施行50周年を記念し作成された琉球切手が本市へ贈呈されました。

残歴版は本庁舎1Fロビーに設置。市制施行50周年の切手は那覇市歴史博物館で5月21日～7月18日まで展示予定です。

一生に一度の記念すべき年、輝かしい未来へ向け皆で盛り上げていきましょう。



2/16

読売巨人軍からの 寄付贈呈式

毎年那覇市でキャンプを行っている読売巨人軍より、医療体制支援として500万円を、那覇市出身の大城卓三選手より100周年記念事業活用へと100万円の寄付を頂き、オンライン贈呈式を行いました。原辰徳監督は「沖縄県内の医療の役に立てればと思います」、大城選手は「生まれ育った那覇市に何か恩返しができないかと思いました。日本一を目指して頑張りますので、応援よろしくお願いします」と話しました。

城間市長は、「今年もキャンプを迎えられ嬉しく思っています。頂いた浄財は、有効に活用させていただきます」とお礼を述べました。



東京2020オリンピックピック沖縄県聖火リレー

東京2020オリンピックピック沖縄県聖火リレーは、那覇市から出発し県内各地を巡ります。名譽あるトップランナーの出発地は、沖縄の歴史・文化が詰まった首里城公園となっております。



沿道における聖火ランナーの走行の様子は、インターネットのライブ中継で視聴いただくことが可能です。沿道の密集を避けるため、なるべくライブ中継でご覧いただきますようお願いいたします。

5月1日(土) **出発地**▼首里城公園 **到着予定地**▼県民広場
ルート、出発時刻など詳しくは東京2020大会組織委員会のホームページをご確認ください。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施内容の変更または中止となる場合があります



組織委員会
ホームページ



那覇市
交通規制図



NHKライブ
ストリーミング

那覇市立図書館

なぽんちゃんのブックトーク

はいたい！「なぽんちゃん」です！
4月23日は「子ども読書の日」です。シェイクスピアとセルバンテスの命日であるその日をユネスコが「世界・本と著作権の日」と宣言していることなどにちなみ、日本では「子ども読書の日」に制定されました。そこで、今回は「読書」をテーマに本を紹介します！

市立図書館キャラクター
「なぽんちゃん」



『積読こそが完全な読書術である』

永田希／著 (イースト・プレス)

「いつか読もう」と思いつつも開かれることなく積まれた本の山、みなさんの机周りにもありませんか？「読めないことに後ろめたさを感じるのではなく、反対に堂々と読まずに積んでいくことこそが読書である」と主張するこの作品は新しい読書の形を提示します。

『このほん よんでくれ!』

ベネディクト・カルボネリ／文 ミカエル・ドゥリュリュ／絵
ほむらひろし／訳 (クレヨンハウス)

絵本の表紙には、ウサギをにらみつけるオオカミ。その足元には絵本が…。見るだけでなんだかドキドキしてきます。字の読めないオオカミがウサギのよむおはなしにむちゅうになり、オオカミはウサギに「おれによみかたを教えてくださいませんか？」とたのみます。オオカミが読み方をおぼえたらウサギは食べられちゃう？結末がどうなるのかは読んでみてのお楽しみ。



(担当：繁多川図書館)

中央図書館 ☎917-3449

あの日の那覇にタイムスリップ

VOL. 12

市役所にあった監置所

日本では国策により、精神を患う患者を隔離する公営の監置所が存在していました。

隔離は戦前からの法律に基づく「私宅監置」の措置であり、日本本土では1950年に廃止になりましたが、米軍統治下の沖縄では1972年まで続いていました。監置所は通常、自宅敷地内に造られていましたが、屋敷が狭いなどの状況により、公営監置所が設けられ、同施設は真和志の他、壺屋や首里にもあったとされ、いつ造られたのか正確な年は分かりませんが、1954年の手続き記録が残されていることから、当時には存在していたことが分かります。

当時写真を撮影した精神科医の岡庭武氏は、この場所について「那覇市内には、



1964年真和志支所の一角にあった監置所 (提供/ (公社) 沖縄県精神保健福祉会)

(琉球) 政府が補助金を出し、区が造った監置所があった。公営の監置所である」と記しています。
ぶんかテンプス館3階ギャラリーでは、4月4日まで私宅監置を問う写真展を開催しています。

広告

1960年代の沖縄 障害者が隔離された現場の写真 入手したジャーナリストが明らかにする日本国家の罪



監督・撮影・編集:原義和 制作:高橋年男 山田圭吾 糸洲のふ子 ナレーション:宮城さつき 音楽:白川ミナ 創作舞踊:Danzatakara. 製作協力:沖縄県精神保健福祉会連合会 沖縄YWCA 製作:障害者映像文化研究所 イメージ・サテライト プロデューサー:中橋真紀人 配給:新日本映画社 [2020/日本/DCP/カラー/5.1ch/97分] ©2020 原義和

4月3日(土)から桜坂劇場で公開

つらく哀しい魂の“うた”を感じてください。闇に沈んだ声なき歌声…

法律に基づき精神障害者を隔離した「私宅監置」制度の実態を明らかにする映画

公開初日の初回は舞台挨拶あり。4日は上映後に私宅監置の研究者の講演も

「広報なほ市民の友」への広告を募集中。問い合わせ先 (株)ホープ ☎092-716-1401



夜明け前のうた 消された沖縄の障害者

隔離の闇を照らす

歌の記憶

歌が伝えるのは

あなたが生きた証